

■ 実務シリーズ 3 ■

単行本の整理

II. 図書(単行本)の分類

松本純子

1. 分類とは

図書の分類に入る前に、たとえば私たちが書店へ行ったときのことを考えてみましょう。書店へは何か興味のある本がないかふらっとのぞいてみる場合と、特定の本が決まっているかあるいはある事に関する本が見たいときなど、目的を持って行く場合があります。この目的の本を自分で探したいときに、もし本棚に本が雑然と置かれていたり、いたるところに積み上げられているような状態だとしたらどうでしょう。

大規模な書店では本を分野別、形態別、出版社別、言語別などに分類して新刊書、小説、文庫本、岩波書店、洋書というように各コーナーを設けていますので、目的のコーナーへ行き本の有無を確かめることができます。

書店も図書館(室)もお客さんや利用者が本を求めて来る点、そして誰もが容易に探し出せるように本を分類・排列する必要がある点ではよく似ています。両者の大きな違いは分類の緻密さともうひとつ、書店は同一の本を各コーナーへ分散して並べることができるのに対し、図書館(室)ではある特定の本が大抵は一冊であることです。したがって図書館(室)での分類とは、まず一冊の本を書架上に並べるための位置を決めることで、そのための道具(ツール)が図書分類表です。

2. 図書分類表

独自の分類法、例えば受け入れ順、科別、あるいはその図書館(室)で作成した分類表を使って排列するのは簡単で、自由に改変できる点便利です。しかし独善におちいりやすく、また他の図書館(室)との共通性を持ちません。分類はやはり全国的、世界的規模での使用を考えて編纂された標準(共通)分類表を使うのが効果的かつ一般的です。標準分類表のメリットは、時代の変化に適應して改版される点や、共通で使用できるので、たとえばJapan MARC(機械可読目録)の利用、あるいは機械化による図書館(室)相互協力や総合目録の作成などの将来性も持っています。

分類表を使って図書を分類する効果としては次のような点が挙げられます。

1. 図書を探す手間を最小限にくい止めることができる。
2. 探していた図書を手にすることができると同時に、その左右に類似書を見ることが出来る。
3. 目標とした主題群の前後にその主題と関連のある図書群が系統的に排架されているので、体系的に見渡すことができる。
4. 蔵書構成のムラを把握することができる。
5. 利用者の希望図書が貸出などによりその箇所がない場合、代替本を提供することができる。
6. 図書室利用、貸出傾向の分析などの実態調査や各種統計調査に有益である。
7. 蔵書点検が容易である。

先にも述べましたが、分類は図書の排架位置を決めるためのものですから、その図書の内容を構成している主題を一つ選ばなければなりません。これを排架分類または書架分類と呼んでいます。

したがってもしその図書に複数の主題があった場合は、一つだけ選ぶことによって他を捨てることになり、この捨てた主題を補うためにあるのが書誌分類です。書誌的記録である目録（カード）から図書を検索するのですから、一冊の図書に必要なだけ分類記号を与えることができます。書誌分類は、特に図書目録をコンピューター管理する場合に有効的に利用できると思います。書誌分類については「目録」でもふれる予定です。

ところで、世界で使われている標準分類表は数多くあります。がここでは我国で最も普及している標準的な分類法である日本十進分類法（Nippon Decimal Classification : NDC）と医学専門分類法である米国国立医学図書館分類法（National Library of Medicine Classification : NLMC）を取り上げ、両者の特徴とその違いについて説明したいと思います。

3. NDCとNLMC

近畿病院図書室協議会の平成3年度年次統計調査によると53機関中、NDC26(49%)、NLMC14(26%)、NDC・NLMC併用4(8%)、その他9(17%)となっています。どの分類表を採用するかは、個々の図書室の特徴、規模、または利用者の利便等を考慮して決めるとよいでしょう。

1) 日本十進分類法 (NDC)

新訂8版 1978年 日本図書館協会

日本の公共図書館、大学図書館で最も多く採用されているのがNDCです。

NDCの大きな特徴は、十進記号法を取り入れた一般分類法であることです。第1次区分として1～9までの記号を与え、この中に属さない総合的な著作物（例えば百科事典など）は0をつけ総記として最初に位置づけています。表1はNDCの綱目表で、医学・薬学は4の自然科学の中の49で表されています。枠内は医学・薬学をさらに展開したものです。次に示すように、上位概念から下位概念へと必要とするまで9区分を繰り返しながら細分化し展開できるしくみになっています。

400	自然科学	類	Class
490	医学・薬学	綱	Division
491	基礎医学	目	Section

491.3	生理学	} 細目 Subsection
32	血液・循環	
326	脈拍	

NDCのもう1つの特徴は助記性があることです。これは記号に共通性を持たせ記憶の助けとするもので、助記表としては、形式区分、地理区分、言語区分、などがあります。

2) National Library of Medicine Classification (NLMC)

Fifth Edition National Library of Medicine (1994年晩春出版予定、Fourth Editionは絶版)

米国国立医学図書館分類法 (Fourth Edition Revised 1981) 日本語版 1987 日本医学図書館協会 (絶版)

NLMCはNDCの十進分類法に対して非十進分類法で、アルファベットと数字の組み合わせで表されます。分類の理論とは無関係な列挙型で実用性を優先しています。米国のLCC (Library of Congress Classification) を基本とし、LCCのRの綱目を医学専門分類として展開したものです。したがって、医学以外の分野の資料を持つ図書室は、他の分類法、例えばLCCやNDCなどと併用する必要があります。表2はNLMCの主綱目表です。

表3はNDCとNLMCのそれぞれの特徴をまとめたもの、また表4は両者の構造を比較したものです。

なお、残念ながらNLMCの日本語版は絶版になっていて現在のところ改版予定もないそうです。

4. 分類法の適用

標準分類表に沿って忠実に分類しようとする必ず不都合な点がでてきます。たとえば一般分類法であるNDCは、医学は自然科学に分類される上、窮屈な十進法のなかで詳細な分類がしにくいこと、また、NLMCはアメリカで作られた分類法のため日本の医学体系に合わない部分があります。したがって標準分類表といえども、その機関の図書室の専門性・特色・機能等に合わせて分類表の修正、項目の追加・展開などを行うことも必要になってきます。

表1 日本十進分類表 (NDC)

綱目表 (2次区分表)

000 総記	500 技術、工学、工業
010 図書館	510 建築工学、土木工学
020 図書、書誌学	520 建築学
030 百科事典	530 機械工学、原子力工学
040 一般論文、講演集	540 電気工学、電子工学
050 逐次刊行物、年鑑	550 海洋工学、船舶工学、兵器
060 学会、団体、研究調査機関	560 金属工学、鉱山工学
070 ジャーナリズム、新聞	570 化学工学
080 叢書、全集	580 製造工学
090	590 家政学、生活科学
100 哲学	600 産業
110 哲学各論	610 農業
120 東洋思想	620 園芸、造園
130 西洋思想	630 蚕糸業
140 心理学	640 畜産業、獣医学
150 倫理学	650 林業
160 宗教	660 水産業
170 神道	670 商業
180 仏教	680 運輸、交通
190 キリスト教	690 通信事業
200 歴史	700 芸術
210 日本史	710 彫刻
220 アジア史、東洋史	720 絵画、書道
230 ヨーロッパ史、西洋史	730 版画
240 アフリカ史	740 写真、印刷
250 北アメリカ史	750 工芸
260 南アメリカ史	760 音楽、舞踏
270 オセアニア史	770 演劇、映画
280 伝記	780 スポーツ、体育
290 地理、地誌、紀行	790 諸芸、娯楽
300 社会科学	800 言語
310 政治	810 日本語
320 法律	820 中国語、東洋の諸言語
330 経済	830 英語
340 財政	840 ドイツ語
350 統計	850 フランス語
360 社会	860 スペイン語
370 教育	870 イタリア語
380 風俗習慣、民俗学	880 ロシア語
390 国防、軍事	890 その他の諸言語
400 自然科学	900 文学
410 数学	910 日本文学
420 物理学	920 中国文学、東洋文学
430 化学	930 英米文学
440 天文学、宇宙科学	940 ドイツ文学
450 地球科学、地学、地質学	950 フランス文学
460 生物学、一般生物学	960 スペイン文学
470 植物学	970 イタリア文学
480 動物学	980 ロシア文学
490 医学、薬学	990 その他の諸文学



490	医学
491	基礎医学
492	臨床医学、診断、治療
493	内科学、精神医学、小児科学
494	外科学、皮膚科学、泌尿器科学
495	婦人科学、産科学
496	眼科学、耳鼻咽喉科学
497	歯科学
498	衛生学、公衆衛生、法医学
499	薬学

表2 米国国立医学図書館分類表 (NLMC)

SYNOPSIS OF CLASSES (綱目表)

PRECLINICAL SCIENCES		基礎医学
QS	Human Anatomy	人体解剖学
QT	Physiology	生理学
QU	Biochemistry	生化学
QV	Pharmacology	薬理学
QW	Microbiology & Immunology	微生物学および免疫学
QX	Parasitology	寄生虫学
QY	Clinical Pathology	臨床病理学
QZ	Pathology	病理学
MEDICINE AND RELATED SUBJECTS		医学および関連主題
W	Medical Profession	医業
WA	Public Health	公衆衛生
WB	Practice of Medicine	臨床医学
WC	Communicable Diseases	伝染病
WD 100	Nutrition Disorders	栄養障害
WD 200	Metabolic Disorders	代謝疾患
WD 300	Immunologic Diseases. Hypersensitivity. Collagen Diseases	免疫疾患. 過敏症. 膠原病
WD 400	Animal Poisoning	動物性中毒
WD 500	Plant Poisoning	植物性中毒
WD 600	Diseases and Injuries Caused by Physical Agents	物理的作因による疾病と 損傷
WD 700	Aviation and Space Medicine	航空および宇宙医学
WE	Musculoskeletal System	筋・骨格系
WF	Respiratory System	呼吸器系
WG	Cardiovascular System	心臓血管系
WH	Hemic & Lymphatic Systems	血液およびリンパ系
WI	Gastrointestinal System	胃腸系
WJ	Urogenital System	泌尿生殖器系
WK	Endocrine System	内分泌系
WL	Nervous System	神経系
WM	Psychiatry	精神医学
WN	Radiology	放射線学
WO	Surger	外科学
WP	Gynecology	婦人科学
WQ	Obstetrics	産科学
WR	Dermatology	皮膚科学
WS	Pediatrics	小児科学
WT	Geriatrics. Chronic Disease	老年医学. 慢性疾患
WU	Dentistry. Oral Surgery	歯科学. 口腔外科
WV	Otorhinolaryngology	耳鼻咽喉科学
WW	Ophthalmology	眼科学
WX	Hospitals & Other Health Facilities	病院その他の保健医療施設
WY	Nursing	看護
WZ	History of Medicine	医学史

表3 NDCとNLMCの特徴

NDC	NLMC
<p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般分類法 ・十進分類法 ・分類記号は算用数字のみ ・書誌分類法・・・分析型 ・目録(カード)は分類目録を採用 ・助記性がある。 ・各主題を医学の学問体系に沿って学(科)の部門と領域別に構成されている。 <p>【長所】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分類記号が算用数字のみで、記憶、書写、排列に便利 2. 体系的に図書を検索する場合に便利 3. 表が単純化され理解しやすい。 4. 記号に助記性があり、助記表の組み合わせによって細分することができる。 5. 記号に柔軟性があり、全体系を乱すことなく、精粗の使い分けができる。 <p>【欠点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい主題の挿入がしにくい。 2. 十進式の記号に知識の体系を当てはめているので、体系が不合理である。 3. 記号が冗長になりやすい 4. 主題の選択がわずらわしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・医学専門分類法 ・非十進分類法 ・7桁パットと算用数字の組み合わせ ・書架分類法・・・集約型 ・件名目録を採用 ・助記的に用いられる例があるが一貫していない。 ・身体系と各器官を同一のカテゴリーとしてあつかっている。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 記号が簡潔である。 2. 主題内が展開しやすいので、未使用の記号を用いることによって、新しい主題を体系上適当なところに挿入できるので弾力がある(医学の発達に適應した追加、変更ができる)。 3. 医学専門分類なので詳細な分類ができる。 4. NLMCの用語とMeSHの用語は関連づけられているので、MeSHのTree Structureを参照することにより、MeSH Termに対応する分類番号を確認できる <ol style="list-style-type: none"> 1. 助記性、伸縮性に欠ける。 2. 体系の系列も概念の上下関係ははっきりしない。 3. 医学以外の分野の図書は他の分類法によらなければならない。

また看護学校や医療技術専門学校などの図書室においては、さらに蔵書構成が特定分野に重点がおかれまますので、使用分類表を使いやすく改編するか、独自の専門分類表をつくった方が便利な場合があります。ただしこの場合も、できるだけ同じ主題の図書館(室)が共通の専門分類表を作成することが望ましいと思います。

5. 分類の実際

1) 図書の内容のとらえ方

分類作業で最も重要なことは「分類表をよく理解すること」と「図書の主題を把握すること」です。表5は分類記号決定までの一般的な手順を示したものです。内容をとらえる時は次の順に行うとよいでしょう。
 ①書名、副書名 ②著者の専門分野・業績 ③目次、序文、あとがき、解説 ④参考文献、⑤本文 ⑥専門家に聞く

専門用語などが理解できない場合には、参考図書(辞書、事典、ハンドブックなど)で調べます。

表4 構造の比較

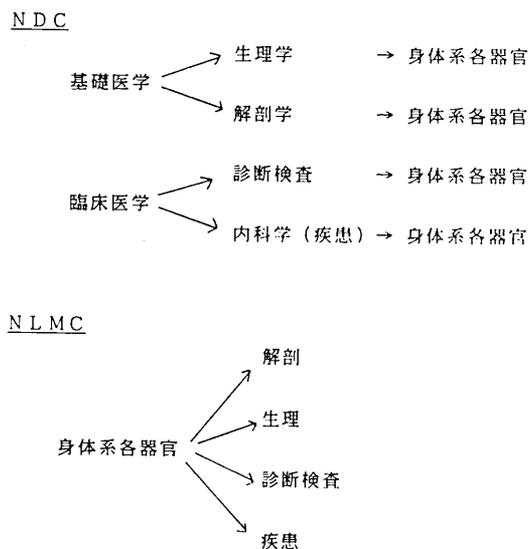
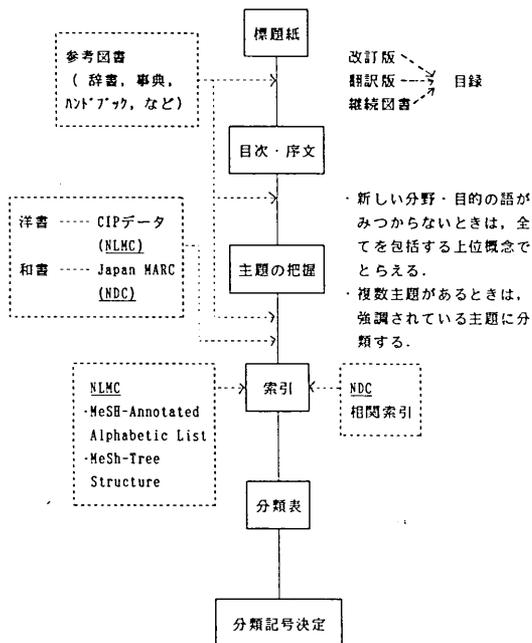


表5 分類記号決定までの手順



2) 分類の指針

分類するときの指針としては次のような事項が挙げられます。

- ①利用者の利便を考慮して分類する。
- ②分類に一貫性を期す。
- ③単行本扱いとするか、逐次刊行物扱いとするか、最初に決めておく（実務シリーズ2参照）。
- ④双書、全集は一括して分類するか、単行本扱いとするか、最初に決めておく。
- ⑤新しい分野や目的の語が見つからない時は全てを包括する上位概念でとらえる。
- ⑥複数の主題がある図書は其中で強調されている主題に分類し、特に強調されていない主題は最初の主題に分類する。
- ⑦索引を参考にする。
- ⑧Japan MARC, CIP(Cataloging-In-Publication-洋書の標題紙の裏ページに記載) データなどの分類データソースを参考にする（次回「実務シリーズ4」で説明）。
- ⑨分類をどの程度まで細分化するかはその図書室の規模、蔵書構成と関連するので、適用範囲をその図書室で決めておく。

以上のように分類で大切なことは、その図書室において明確な方針を立てて一貫性を保つことです。経験を積んだ担当者でさえ、分類にバラツキが生じることがあります。分類に迷った図書や新しい主題を扱った図書などは記録しておくことや、また継続図書、改訂版、翻訳版などは目録カードに当たって前例を参考にするなど大切ですが、たとえ担当者が変わっても首尾一貫した分類が行えるように、分類表に修正を加えた場合も含め、種々な分類上の記録を残しておくことが必要だと思います。

3) 叢書扱いと単行本扱い

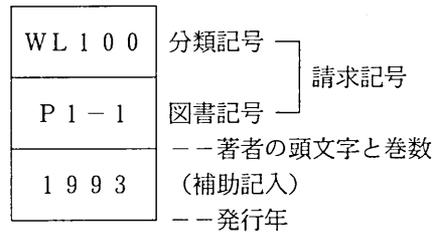
全集、講座、シリーズなどの叢書は一括して分類するか、個別に分類するか決めておかなければなりません。その取り扱い方は利用者の利便を考慮して判断するのがよいと思います。一般的に単行本扱いが適当とされるものに、叢書の全巻をそろえないで選択して購入したもの、叢書扱いが適当とされるものには、「最新内科学体系全80巻、中山書店」、「Handbook of clinical neurology、

Elsevier」などのように特定主題に関する叢書で体系的に編集され、特に最終巻に総索引などがつくものが挙げられます。

6. 図書記号

分類記号の順に図書を排架するときに、同一の分類記号の図書が数冊あった場合さらに順序づける必要があります。このために付ける記号を図書記号といい、分類記号と合わせて請求記号(Call Number)といいます。図書記号は受入順、刊行順、著者のアルファベット（または五十音順）があります。ブックラベルは請求記号を図書の背に表示するため貼付するもので、その記載の仕方は、利用者や図書館（室）担当者の利便を考慮して各図書館（室）で工夫するとよいと思います。

例



《参考資料》

1. もりきよし編：図書館員選書2 NDC入門。東京、日本図書館協会、1982.
2. NLMC分科会・関東地区医学図書館協議会・目録標準化を検討する会：National Library of Medicine Classification の使い方(1) 医学図書館 32、379-400、1985.
3. NLMC分科会・関東地区医学図書館協議会・目録標準化を検討する会：National Library of Medicine Classification の使い方(2) 医学図書館 33、32-47、1986.